

令和4年度「多摩テレビ放送番組審議会」議事概要

日 時	令和5年2月15日(水) 14時00分～		
会 場	パルテノン多摩		
出席者	出席委員 4名	今原 淳夫 委員(会長) 中村 その子 委員 橋場 万里子 委員 木村 亮太 委員	事務局 代表取締役社長 齋藤 健治 常務取締役 神崎 龍治 執行役員(技術等担当) 久保 明 執行役員(制作担当) 矢崎 節子 統括総務部長 市川 雅裕 技術部長 渡邊 穰 営業部長 小谷田 弥 制作部マネージャー 小林 心
	欠席 1名	長崎 健 委員	
議 事	(1) 多摩テレビの現況・コミュニティチャンネル(地域情報番組)のビデオ視聴 (2) 今年度のコミュニティチャンネル(地域情報番組)の取組 (3) 質疑応答		
<b>委員からの意見</b>			
<b>(1) 多摩テレビの現状について・コミュニティチャンネル(地域情報番組)のビデオ視聴</b> ＜特に質疑なし＞			
<b>(2) 今年度のコミュニティチャンネル(地域情報番組)の取組</b> ＜特に質疑なし＞			
<b>(3) 質疑応答</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい取り組みとしてSNSを積極的に活用していこうとしても、自分たちで映像コンテンツなどを作る技術がないので、スポンサー契約については、番組に取り上げてもらえるということだけでももちろん価値があるのだが、さらに、映像コンテンツ等の二次利用が可能という部分に非常に魅力を感じる。お笑い芸人に実際に取材に来てもらえるなど、「ちょっと違った雰囲気」を伝えられるのではないか。」という部分も魅力を感じる。</li> <li>・今までの取組について、プロの編集で非常に質の高いコンテンツを作成されている。</li> <li>・スポンサーの番組コーナーなどの提供に関して、お店としてあまりよろしくないお店が自身をPRして欲しいとなった場合に、なにか防御する規定などはあるか？ ⇒(事務局回答)多摩テレビ放送番組基準に従い番組を作っている。特に「児童及び青少年への配慮」という項目に特に注意をしている。来年度からのスポンサーについては、ビルに入っているテナントを管理企業に紹介してもらうため、好ましくないお店ということはスポンサー様との関係において起こりえないことだと思うが、今後、スポンサー希望の企業様が増えた場合は、対策を検討していかなければならないと考えている。 当面心配ないが、今後も放送番組基準を念頭に置いて番組制作を続けていく。</li> <li>・ビデオを視聴して、内容が非常にバラエティに富んでいて、しかも地域密着であり、地域の方のニーズに応えた番組が多いと感じた。特に「安全安心プラス」に関して、地元の消防士が地域の災害の状況などを伝えているのは、全国放送では出来ないような、本当に身近な危機意識を喚起させる内容だったので、非常に有益と感じた。</li> <li>・東京都公園協会が関わっている番組も見応えを感じた。</li> </ul>			

- ・当該施設に関する番組（コーナー）が流れると、すぐに利用者様から「見たよ」と声を掛けられるので、地域の方も楽しみにしているのかな。と感じる。そういう点からも、多摩テレビに取り上げられることにメリットを感じる地域の方も多いのではないかと。

⇒（事務局回答）YouTubeなどを活用し、多くの方に見ていただけるよう、またアーカイブとしても残していき、テレビの放送が終わった後も興味をもっていただけるような活動を続けていきたい。

また、地域の歴史を伝えるなど、地元の方と連携をしながら継続していきたい。

- ・若者（学生）のメディアに対する態度が最近是非常に変容して来ている。早送りではばっと見てしまったり、サブスクで見られてしまったり、環境が変化してきている。そういう中で、「視聴者を参加させる」というスタンスから考えると、今までは見るだけではなく参加しましょう。という、SNSに書き込む、イベントに参加する、など単に参加するという形だったが、一歩進んで、何かをプロデュースさせるというような段階にきているのではないかと考えている。また、人と人、企業と若者、地域と若者などを結び付けるプラットフォームになるというのがその先のフェーズではないかと考えている。そういう点でもスポンサーというのは希望があり、有望で、とても良いと感じた。

⇒（事務局回答）学生との連携を今後進めると、産官学という形でコミュニティの構成員としてチームができあがるのでは。と考えている。現在はまだ入り口の取組だが、多摩テレビのサイネージを使って何か出来ないかと大学側に問い合わせをし、学生主体で多摩美術大学、恵泉女学園大学、国土館大学に協力してもらい、作品などを流している。そういったことをきっかけにして、番組なり様々な地域活動に繋げて行ければ、大学とのつながりも更に深まると感じている。

- ・最近、大企業からの第二新卒が非常に増えている。生まれ住んだ近くの人に勤めたいという人が多い。昔のように大企業志向だけではなく、自分なりのライフワークアンドワークバランスを考えて、そういう所へ思い切って来ようという人たちも非常に多くなってきた。また、多摩イノベーションエコシステム促進事業により企業紹介もされている。そういうことも含め、これまでは23区内に集中していたが、だんだん地域というものが見直されてきている。多摩は非常に心地よい場所になってくるのではないかと感じる。そういった企業活性化の視点からも是非、企業連携というものを広めていただきたい。また、企業紹介を映像化していただくことも、非常にいい力になると思うので、是非ご検討いただきたい。

以上